

## 【ナガサキ声明】

次世代の平和と環境への責任として  
核兵器禁止条約の即時交渉開始を求めます。

原爆投下から71年を迎える長崎に、私たち PEACE&GREEN BOAT 2016 は入港しました。韓国と日本の参加者たちは、平和や環境を考えるさまざまなプログラムを通じて、隣人どうしとして共存への努力の必要性を改めて学びました。

私たちは、原爆投下で命を奪われた、朝鮮半島からの人々を含む多数の犠牲者に哀悼の意を表します。そして、今日さまざまなご労苦のなか核廃絶と平和を訴えていらっしゃる日韓の被爆者の皆さまに心より敬意を表します。

今年、世界の注目を集めたオバマ米国大統領の史上初めての被爆地訪問が実現したのも、こうした被爆者の皆さまの長い年月にわたるご努力の成果であると確信します。

そして、このような惨劇をくり返さないために、戦争を放棄した日本の平和憲法の意義を私たちは改めて再確認します。

核兵器のない世界を実現することは、私たちの将来世代に対する責任です。広島・長崎が経験した非人道的な破滅や、世界中での核実験が人々と環境にもたらしてきた取り返しのつかない影響を考えると、核兵器が二度と、意図的であれ偶発的であれ、使われないことを保証することは人類社会の最優先課題の一つです。

にもかかわらず、今日、北朝鮮の核問題を含め、アジアにおいて核を含む軍備競争が進んでいるのは誠に憂慮すべき事態です。

また、福島第一原発の深刻な事故にも関わらず、日韓両国が原発政策を推進していることは、地球環境への重大な脅威でもあります。

そして、一方で原発の稼働は長崎原爆の材料物質であるプルトニウムを作り出し続けています。こうした状況が不測の破滅的事態につながる危険性を、私たちは真摯に直視しなければなりません。

こうした中、今世界では、たいへん励まされる動きがあります。それは、ジュネーブの国連欧州本部で開かれてきた国連作業部会において、大多数の国々が核兵器禁止条約を作ることを支持する声を上げているということです。私たちはこの作業部会が、核兵器禁止条約の交渉開始を明確に支持する勧告を採択し、国連総会に送ることを期待しています。

私たちは世界中のすべての国に対して、核兵器禁止条約の交渉に積極的に参加することを求めます。とくに日本と韓国の政府の責任は重大です。これらの政府は核抑止論という恐怖の論理に依拠した政策をとり、核兵器禁止条約には消極的な態度をとってきました。今この政策を大きく転換し、核兵器禁止条約交渉に参加すべきです。核兵器禁止条約の交渉が進むことは、北東アジア非核地帯化の動きを前進させることにもつながります。

長崎を最後の被爆地にしなければなりません。核兵器は決して許されない非人道兵器であるということを国際的な法規範として確立し、人類の歴史の新たなページを開くことに対して、私たちは努力を惜しみません。

2016年8月5日  
長崎にて

PEACE&GREEN BOAT 2016  
環境財団  
ピースボート